

10月1日から 広報紙の全戸配布を開始

現在、行政区長や組長の皆さまにご協力いただき、行政区の加入世帯へお届けしている広報紙。訪問配布の負担軽減と行政情報の周知強化を目的に、10月1日発行の「広報ふくち」から配布方法を民間業者による全戸配布に変更し、町内全世帯への広報紙配布を開始します。

変更内容

- 配布対象 自治会加入者 ▶ **全世帯**
- 配布方法 自治会配布 ▶ **業者配布**

配布業者

ヤマト運輸株式会社 北九州主管支店

配布方法

毎月10日を目処に、各世帯の郵便受けや新聞受けに広報紙を投かんします。

※ 透明なビニール袋にラッピングした状態で配布します。
※ 住民票等の照会をせず、建物に配布する方法で全戸配布します。

次のような場合は、下記コールセンターまでご連絡を！

- 広報紙が配布されていない場合
- 長期不在などの理由で、広報紙の配布を停止(再開)する場合 など

お問い合わせ先

広報紙全戸配布コールセンター

【平日】9時～17時 ※土・日・祝は休み

☎0120-887-571

【担当】福智町役場 まちづくり総合政策課 広報・広聴係

FUKUCHI



↑ 令和2年9月、西日本鉄道(株)から西鉄バス金田・方城線(27.55km)の廃止申し入れを受け、福智町は関係市町と継続要望を実施。結果、当初の予定より2年延長されましたが、乗務員不足や利用者減少などの理由により、やむを得なく今年9月末で廃線へ。

移動支えた西鉄バス廃線 迫る公共交通のない未来

福智町の公共交通再編により、今年10月から、貴重な「地域の足」として役割を担うことになった田川構内タクシー、へいちく、そして「ぶく〜るバス」。通勤や通学、買い物などの日常生活や、観光という側面でも魅力あるまちづくりにより公共交通は欠かせません。しかしながら、自動車の普及や人口減少により、利用者の減少に歯止めがかけられず、状況が深刻化しているのも事実です。

令和2年実施の「福智町公共交通に関する住民アンケート」では、日常の主な移動手段として約7割のかたが「自家用車」と挙げ、公共交通の利用頻度を約5割以上のかたが「利用しない」と答える厳しい結果に。一方で、公共交通の必要性については、「将来利用したいので必要」という意見が最も多く寄せられていました。この結果から「今は必要なくても、将来自分や親の運転が困難になったとき、自分の子どもや孫が通学するときに公共交通が必要と感じているかたも多いのではないのでしょうか。それでは、「本当に必要な」となった時に、公共交通がなかったら…と想像を膨らませてみて下さい。公共交通事業者の乗務員不足や不採算路線からの撤退が各地で叫ばれている現代、福智町にバスや鉄道がない未来も十分に考えられます。実際に、西鉄バス金田・方城線

は今年9月末での廃止が決定しており、最悪の事態が現実のものとなり始めているのです。

危機感共有し乗って残そう なくてはならない地域の足

公共交通が再編されたこの機会に町全体で危機感を共有し、移動についての選択肢を後世につないでいく責務があるのではないのでしょうか。といっても、気負ったり、難しく考えたりする必要はありません。「機会を見つけて公共交通を使う」。単純なことですが、これが、私たちに今できる最高の支援なのです。将来の自分や親、子ども、孫が公共交通を必要とする時が必ず訪れます。その時のために、一人ひとりが努めて公共交通を利用し、次世代の福智町へ、公共交通というバトンをつないでいきましょう。

人口減少や乗務員不足など、取り巻く環境の変化で状況が悪化の一途をたどる公共交通。これまで町の移動を支えてきた西鉄バス金田・方城線も今月末で廃線と、この町に公共交通がない未来も見えてきた今、私たちにできることを福智町地域公共交通会議会長の竹下靖副町長に伺いました。

今ある公共交通を未来へ



運行についてのお問い合わせ先

田川構内タクシー

田川構内自動車株式会社 配車センター ▶ ☎44-2311



へいちく

平成筑豊鉄道株式会社 ▶ ☎22-1000



予約型乗り合いバス「ぶく〜るバス」

役場まちづくり総合政策課 地域振興係 ▶ ☎22-7766

福智町社会福祉協議会 ▶ ☎22-3778

